

日本語教育人材に求められる資質・能力の整理(案)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">基本的な資質・能力 求められる 日本語教育人材に</p>	<p>日本語教育人材に求められる基本的な資質・能力として、次のような点が重要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていること。 多様な言語・文化・社会的背景を持つ学習者と接する上で、文化的多様性を尊重する態度を持っていること。 コミュニケーションを通じてコミュニケーションを学ぶという日本語教育の特性を理解していること。 <p>専門人材としての日本語教員に求められる資質・能力として、次のような点が重要である。</p> <p>言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。 広く言語や文化に対する深い関心と鋭い感覚を有していること。 国際的な活動を行う教育者として、グローバルな視野を持ち、豊かな教養と人間性を備えていること。 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱を有し、常に学び続ける態度を有していること。 日本語教育を通じた人間の成長と発達に対する深い理解と関心を有していること。</p>				
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">日本語教員 養成段階</p>	知識	技能	態度	
<p>【1. 言語や文化に関する知識】</p> <p>(1) 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、日本語の構造に関する知識、そして言語使用や言語発達、言語の習得過程等に関する知識を持っている。</p> <p>(2) 個々の学習者の来日経緯や学習過程等を理解する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(3) 言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、よりよい教育実践につなげるための知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) コースにおける各科目や授業の位置づけを理解し、様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(6) 学習者の学習過程を理解し、学習者に応じた適切な内容・教材・方法を選択する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(7) 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持っている。</p> <p>(8) 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(9) 自らの授業をはじめとする教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持っている。</p> <p>【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】</p> <p>(10) 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持っている。</p> <p>(11) 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育施策に関する知識を持っている。</p>		<p>【1. 言語や文化に関する知識】</p> <p>(1) 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、日本語の構造に関する知識、そして言語使用や言語発達、言語の習得過程等に関する知識を持っている。</p> <p>(2) 個々の学習者の来日経緯や学習過程等を理解する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(3) 言語・文化の違いや社会における言語の役割を理解し、よりよい教育実践につなげるための知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) コースにおける各科目や授業の位置づけを理解し、様々な環境での学びを意識したコースデザインを行う上で必要となる基礎的な知識を持っている。</p> <p>(5) 日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(6) 学習者の学習過程を理解し、学習者に応じた適切な内容・教材・方法を選択する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(7) 異なる文化背景を持つ学習者同士が協働し、主体的に学び合う態度を養うための異文化理解能力やコミュニケーション能力を育てるために必要な知識を持っている。</p> <p>(8) 学習者の日本語能力を測定・評価する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(9) 自らの授業をはじめとする教育活動を客観的に分析し、より良い教育実践につなげるための知識を持っている。</p> <p>【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】</p> <p>(10) 外国人施策や世界情勢など、外国人や日本語教育を取り巻く社会状況に関する一般的な知識を持っている。</p> <p>(11) 国や地方公共団体の多文化共生及び国際協力、日本語教育施策に関する知識を持っている。</p>	<p>【1. 教育実践のための技能】</p> <p>(1) コースデザイン・カリキュラムデザインを踏まえ、目的・目標に沿った授業を計画することができる。</p> <p>(2) 学習者の日本語能力等に応じた適切な教育内容・教授方法を選択することができる。</p> <p>(3) 学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を持っている。</p> <p>(4) 学習者に応じた効果的な教具・教材を活用または作成し、授業実践に生かすことができる。</p> <p>(5) 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・異文化間コミュニケーション能力を持っている。</p> <p>(6) 授業や教材等を分析する能力があり、自らの授業をはじめとする教育活動を振り返ることができる。</p> <p>【2. 学習者の学ぶ力を促進する技能】</p> <p>(7) 学習者の日本語学習上の問題を解決するために、適切な評価を行う能力を持っている。</p> <p>(8) 異なる文化背景を持つ学習者が多様なリソースを活用し、教育実践に必要な教育能力を持っている。</p> <p>(9) 学習者の理解に応じて日本語を分かりやすくコントロールする能力を持っている。</p> <p>【3. 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(10) 日本語を使うことにより、社会が広がることを意識し、それを授業実践に生かすことができる。</p>	<p>【1. 教育実践のための技能】</p> <p>(1) コースデザイン・カリキュラムデザインを踏まえ、目的・目標に沿った授業を計画することができる。</p> <p>(2) 学習者の日本語能力等に応じた適切な教育内容・教授方法を選択することができる。</p> <p>(3) 学んだ知識を教育現場で実際に活用・具現化できる能力を持っている。</p> <p>(4) 学習者に応じた効果的な教具・教材を活用または作成し、授業実践に生かすことができる。</p> <p>(5) 学習者に対する実践的なコミュニケーション能力・異文化間コミュニケーション能力を持っている。</p> <p>(6) 授業や教材等を分析する能力があり、自らの授業をはじめとする教育活動を振り返ることができる。</p> <p>【2. 学習者の学ぶ力を促進する技能】</p> <p>(7) 学習者の日本語学習上の問題を解決するために、適切な評価を行う能力を持っている。</p> <p>(8) 異なる文化背景を持つ学習者が多様なリソースを活用し、教育実践に必要な教育能力を持っている。</p> <p>(9) 学習者の理解に応じて日本語を分かりやすくコントロールする能力を持っている。</p> <p>【3. 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(10) 日本語を使うことにより、社会が広がることを意識し、それを授業実践に生かすことができる。</p>	<p>【1. 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 日本語ばかりでなく広く言語や文化に対する深い関心と鋭い感覚を持ち続けようとする。</p> <p>(2) 日本語そのものの知識だけでなく、歴史、文化、社会事象等、言語と切り離せない要素を合わせて理解し、教授活動に活かそうとする。</p> <p>(3) 日本語教育に関する専門性とその社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の実践を客観的に振り返り、常に学び続けようとする。</p> <p>【2. 学習者に対する態度】</p> <p>(4) 言語・文化の相互尊重を前提とし、学習者の背景や現状を理解しようとする。</p> <p>(5) 指導する立場であることや、多数派であることは、学習者にとって権威性を感じさせることを、常に自覚し、自身のものの見方を問い直そうとする。</p> <p>【3. 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(6) 異なる文化や価値観に対する興味関心と広い受容力・柔軟性を持ち、多様な関係者と連携・協働しようとする。</p> <p>(7) 日本社会・文化の伝統を大切にしつつ、言語・文化の多様性を尊重しようとする。</p>

活動分野別の日本語教員【初任】に求められる資質・能力の整理(案)

		知識	技能	態度
日本語教員【初任】 (活動分野別)	生活者としての外国人	<p>【1.「生活者としての外国人」に対する指導の前提となる知識】</p> <p>(1) 地域の外国人の背景・状況・特徴等について正しく理解している。</p> <p>(2) 「生活者としての外国人」を取り巻く地域の実情や課題について理解するとともに、地域の教育リソースを活用するための知識を持っている。</p> <p>(3) 地域日本語教育における多様な学びと、日本語教員・支援者の役割や連携体制について理解している。</p> <p>【2.日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標、内容、方法についての知識を持っている。</p> <p>(5) 「生活者としての外国人」に対する日本語教育の目的・目標に沿った授業を計画する上で、必要となる知識を持っている。</p> <p>(6) 「生活者としての外国人」は、ライフステージによって、必要となる日本語が変化するというを理解し、学習者の状況に応じ、教育的観点やキャリア支援の観点から見て適切な指導計画を立てる上で必要となる知識を持っている。</p>	<p>【1.教育実践のための技能】</p> <p>(1) 学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>(2) ニーズ分析、レベルチェックが適切に実施できる。</p> <p>(3) 地域における学習者の背景・属性を理解し、地域のリソースを活用し、ニーズやライフステージに応じた効果的な日本語教育を実践することができる。</p> <p>(4) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践を行うことができる。</p> <p>【2.成長する日本語教員になるための技能】</p> <p>(5) 自らの指導力に関し、分析的に振り返り、指導力の向上や指導計画の点検・改善を行うとともに、関係者間で共有を図り、協働して指導の改善を行うことができる。</p> <p>【3.社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(6) 日本語学習の成果を効果的に共有・公開することで、学習者が家族や関係者より良い関係を構築できるよう促すことができる。</p> <p>(7) 学習者が地域社会とつながり、ネットワークを構築する力を育てる教育実践を行うことができる。</p>	<p>【1.言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 学習者の多様な背景、ニーズ、学習環境を的確にとらえ、その個性性と学びに向き合おうとする。</p> <p>【2.学習者に対する態度】</p> <p>(2) 学習者の背景・文化・日本における生活状況を理解しようとする。</p> <p>(3) 学習者の自律学習を支援し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3.文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 学習者が人とつながり、ネットワークを構築する力を育てようとする。</p> <p>(5) 地域社会や多様な機関と連携・協力し、「生活者としての外国人」が自立的に生活するための、エンパワメントとしての日本語教育を意識している。</p>
	留学生 (日本語教育機関)	<p>【1.留学生に対する指導の前提となる知識】</p> <p>(1) キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語指導を実施する上で必要な知識を持っている。</p> <p>(2) 進学や就職に必要な試験や、その内容を指導するために必要な知識を持っている。</p> <p>(3) ICTを活用した指導を行う上で、必要な知識を持っている。</p> <p>(4) 言語習得に関する実践的な知識を持っている。</p> <p>【2.日本語の教授に関する知識】</p> <p>(5) 学習者が他者と協働し、自立的かつ主体的に学んでいけるようにするために、必要な知識を持っている。</p>	<p>【1.教育実践のための技能】</p> <p>(1) 学習者の状況に応じ、教育的観点から見て適切な指導計画を立てることができる。</p> <p>(2) キャリア支援の視点を持ち、それぞれの専門分野の学習に必要な日本語能力を身につけるための効果的な指導ができる。</p> <p>(3) 学習者の自律学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てるための教育実践ができる。</p> <p>(4) ICTを活用した効果的な教育実践ができる。</p> <p>(5) 様々な規模・形態のクラスの管理・運営を行うことができる。</p> <p>【2.成長する日本語教員になるための技能】</p> <p>(6) 指導計画に基づき実践した授業や教育活動を分析的に振り返り、改善と新たな実践のための検討ができる。</p> <p>【3.社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7) 教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教室活動をデザインすることができる。</p>	<p>【1.言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 複数の教員でクラスを担当するチームティーチングについて理解し、講師間で連携・協力を図ろうとする。</p> <p>(2) 日本語学習だけでなく、進路選択に関しても担当者と連携し、多様な関係者とともに関わり、指導を実践しようとする。</p> <p>【2.学習者に対する態度】</p> <p>(3) 学習者の自律学習を促進し、主体的に学ぶ力を育てようとする。</p> <p>【3.文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(4) 留学生を取り巻く社会状況の変化に関心を持っている。</p> <p>(5) 学校外の地域社会や他者とのつながりを持つことの意味を理解し、機会提供に努めようとする。</p>
	児童生徒等	<p>【1.児童生徒等に対する指導の前提となる知識】</p> <p>(1) 児童生徒の成長発達の特徴、及び生育環境の変化による影響について理解している。</p> <p>(2) 児童生徒の社会化のプロセスについての知識を有し、キャリア支援の視点から将来を想定して日本語指導が果たす役割を理解している。</p> <p>(3) 日本の教育制度を理解し、学校における児童生徒等の受け入れ体制や支援の仕組みに関する知識をもっている。</p> <p>【2.日本語の教授に関する知識】</p> <p>(4) 児童生徒の言語習得と言語運用の特徴に関する知識を有する。</p> <p>(5) 日本語の指導計画に関する知識を有する。</p>	<p>【1.教育実践のための技能】</p> <p>(1) 児童生徒等の年齢・能力・文化的背景に応じて日本語の学習活動を設計することができる。</p> <p>(2) 指導計画に即して、個に応じた指導を行うことができる。</p> <p>(3) 教科等と日本語との統合的な学習活動の支援を行うことができる。</p> <p>(4) 児童生徒等の生活全般に関連付けて教材教具を工夫し、指導することができる。</p> <p>(5) 児童生徒の日本語を含む言語の能力を、多様な角度から把握・評価することができる。</p> <p>【2.成長する日本語教員になるための技能】</p> <p>(6) 実践を分析的に振り返り、改善のための検討を行うことができる。</p> <p>【3.社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7) 児童生徒等を取り巻く社会の中に、自身の役割を位置づけ、指導・支援の内容・方法を決定し、実施することができる。</p> <p>(8) 学校や地域、家庭などでの児童生徒等の活動や、将来を想定した指導を行うことができる。</p>	<p>【1.言語教育者としての態度】</p> <p>(1) キャリア支援の視点から、児童生徒等の日本語学習支援の在り方を考え、実践しようとする。</p> <p>(2) 日本語指導の現場だけでなく、学校や地域、家庭など多様な角度から児童生徒等の日本語の使用や習得状況を捉えようとする。</p> <p>(3) 担当教員、学校関係者や保護者、地域関係者と円滑に協働し、効果的に日本語学習支援を行おうとする。</p> <p>【2.学習者に対する態度】</p> <p>(4) 複雑な事情を抱える多文化家族の背景を理解し、児童生徒等に寄り添おうとする。</p> <p>【3.文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(5) 指導する立場であることや、多数派であることは、児童生徒等やその保護者にとって権威性を感じさせることを、常に自覚し、自身のものの見方を問い直そうとする。</p>

日本語教員【中堅】に求められる資質・能力の整理(案)

		知識	技能	態度
日本語教員	中堅	<p>【1. 言語や文化に関する知識】</p> <p>(1) 日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(2) 国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。</p> <p>【2. 日本語の教授に関する知識】</p> <p>(3) 学習者の日本語能力を把握・分析し、適切な学習指導を行うための知識を持っている。</p> <p>(4) 教材開発・編集・改善に必要な知識を持っている。</p> <p>(5) 教育機関や教育プログラム、教育活動、日本語能力について評価を適切に実施し、点検・改善を行うための方法を知っている。</p> <p>【3. 日本語教育の背景をなす事項に関する知識】</p> <p>(6) 教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインを行う上で必要となる知識を持っている。</p> <p>(7) 日本語教員(初任)及び日本語学習支援者に適切な助言を行う上で必要となる人材育成に関する基礎的な知識を持っている。</p>	<p>【1. 教育実践のための技能】</p> <p>(1) 学習者及び関係者のニーズを踏まえ、日本語教育プログラムを策定し、運営することができるとともに、学習者の属性やニーズ等の変化に応じて臨機応変にプログラムを調整する能力を持っている。</p> <p>(2) 日本語教育プログラムあるいはコースの中長期的な指導計画を策定する能力を持っている。</p> <p>(3) コース・プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。</p> <p>(4) 日本語教育プログラムを実施し、点検・評価を行い、改善を図る力を持っている。</p> <p>(5) 日本語教員(初任)及び日本語学習支援者に適切な助言をすることができる。</p> <p>【2. 学習者の学ぶ力を促進する技能】</p> <p>(6) 学習者の日本語能力を適切に把握・分析し、効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる。</p> <p>【3. 社会とつながる力を育てる技能】</p> <p>(7) 日本語教育現場における課題、自らの専門性における課題を把握し、関係者や他分野の専門家や機関・団体等との連携・協働により課題解決に取り組むことができる。</p>	<p>【1. 言語教育者としての態度】</p> <p>(1) 日本語教育の専門家(中堅)として、日本語教育の社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の実践を客観的に振り返るとともに、新しい知識を習得しようとするなど、常に学び続けようとする。</p> <p>(2) 日本語教員(初任)や日本語学習支援者に対して、振り返りや学びの機会を積極的に提供しようとする。</p> <p>(3) 学習者や他の日本語指導者とともに学び合い、成長していこうとする。</p> <p>【2. 学習者に対する態度】</p> <p>(4) 学習者が学びに向き合えるように様々な方策を用いて、ともに課題解決に当たろうとする。</p> <p>【3. 文化的多様性・社会性に対する態度】</p> <p>(5) 教育実践や課題、成果等を記録・発信し、教育実践の質的向上に生かそうとする。</p> <p>(6) 異なるピルーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら、協力的にプログラムを運営していこうとする。</p>
	初任			

中堅は、養成段階・初任段階を経た者を前提とする。

その他,日本語教育人材(日本語教育コーディネーター・日本語学習支援者)に求められる資質・能力の整理(案)

	知識	技能	態度
日本語教育コーディネーター	主任教員	<ul style="list-style-type: none"> (1) 教育機関の目標に沿った日本語教育プログラムを円滑に運営・管理する能力を持っている (2) 組織マネジメント能力を持ち、緊急時における危機管理能力を含め、状況に応じたリーダーシップを発揮できる (3) 組織やプログラムの現状を分析し、課題を把握し、改善計画を実施できる (4) 外国人施策、教育行政や他の教育機関の動向等に関する情報を収集し、現場に生かす力を持っている (5) 業務を円滑に行うための事務処理能力、関係する諸機関や関係者との調整・交渉能力・ネットワーキング力を持っている (6) 多様な機関と連携・協働し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動をデザインすることができる (7) 日本語教育プログラムに関わる初任日本語教員及び日本語学習支援者等に対する研修を企画できる 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日本語教育の専門家として、自らの職業の社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の指導や日本語教育プログラムについて客観的に振り返るとともに、自らの立場と役割を認識し、必要とされる知識・能力を獲得しようとするなど、常に学び続けようとする (2) 日本語指導者(初任・中堅)に必要な研修を把握し、その受講機会を積極的に提供するとともに、教員のキャリアを含む中長期的な人材育成に努めようとする (3) 組織内の中間管理職としての立場と役割を認識し、前向きに取り組もうとする (4) 地域を含めた他の関係機関・団地との交流等を通じて、多様な教育機会を提供しようとする
	地域日本語教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> (1) 国や地域内の外国人の状況や、外国人に関する日本の法制度や地域の行政サービスに関する知識を持っている。 (2) 地域日本語教育の体制整備に向けて、現状把握・課題設定・実施を行うために必要となる基本的な知識を持っている。 (3) 地方自治体や所属機関の方針、地域のニーズを把握し、適切な日本語教育プログラムをデザインするために必要な知識を持っている。 (4) 日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善を管理するための知識を持っている (5) 日本語教育プログラムの実施に必要な、日本語教員や日本語学習支援員に対する研修を企画するための知識を持っている (6) 地方公共団体をはじめとする地域の関係機関・団体・関係者と連携・協力体制を構築する上で必要な知識を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地域日本語教育の体制整備に向けて、現状把握・課題設定をし、課題解決のための取組を計画的に実施することができる (2) 地方自治体や所属機関の方針、地域のニーズを把握し、適切な日本語教育プログラムをデザインすることができる (3) 日本語教育プログラムの策定・実施・点検・改善を管理することができる (4) 外国人施策、教育行政や他の教育機関の動向等に関する情報を収集し、現場に生かす力を持っている (5) 地方公共団体をはじめとする地域の関係機関・団体・関係者と連携・協力体制を構築することができる (6) 業務を円滑に行うための事務処理能力や組織マネジメント能力を持ち、状況に応じたリーダーシップを発揮できる (7) 多様な機関と連携・協働し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動をデザインすることができる (8) 日本語教育プログラムに関わる初任日本語教員及び日本語学習支援者等に対する研修を企画できる

	知識	技能	態度
日本語学習支援者	<ul style="list-style-type: none"> (1) 日本語や日本文化、社会、多文化共生に対する一般的な知識・理解を持っている (2) 日本語教育に携わる機関・団体及び関係者による支援体制と自らに期待される役割について理解している (3) 学習者の来日の経緯、国や言語・文化背景、日本語の学習目的に対する一定の知識を持っている (4) 異文化理解や異文化間コミュニケーション、コミュニケーション能力に関する基礎的な知識を持っている (5) 日本語の構造や日本語学習支援に関する基本的な知識を持っている 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 分かりやすく伝えるために、学習者に合わせて自身の日本語を調整することができる (2) 学習者の発話をうまく促すために、自身の発話を調整することができる (3) 日本語教育コーディネーターや日本語教員とともに、日本語学習を支援することができる (4) 学習者の状況を観察し、日本語教員や日本語教育コーディネーターの助言を得ながら、学習方法や学習内容を学習者に合わせて工夫することができる 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習者の背景や現状を理解しようとする (2) 学習者の言語や文化を尊重し、対等な立場で接しようとする (3) 学習者や支援者などと良好な対人関係を築こうとする (4) 学習者が自ら学ぶ力を育み、その学びに寄り添おうとする (5) 異なる考えや価値観を持つ他者と協働できる柔軟性を持つようとする

日本語教育人材の整理

本小委員会の検討において、「日本語教育人材」とは、各活動分野で日本語教育コーディネーター、日本語教員、日本語学習支援者等として日本語教育に携わる人材を指す。

日本語教育人材の整理	日本語教員	<p>中堅段階</p> <p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能及び十分な経験を有し、日本語教員としての高度な専門性を持つ者。国内外の日本語教育の現場で学習者に応じた日本語教育プログラムを策定し、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p>
	初任段階 (活動分野別)	<p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、かつ活動分野や学習対象者別に応じて求められる日本語教員としての専門性を持つ者。国内外の日本語教育現場で定められた分野別の日本語教育プログラムに基づき、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p>
	養成段階	<p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能を有し、日本語教員としての専門性を持つ者。国内外の日本語教育現場で定められた日本語教育プログラムに基づき、体系的・計画的に日本語指導を行う者。</p>
	日本語教育コーディネーター	<p>日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語として日本語を教える体系的な知識・技能、学習者に対する十分な知識及び経験を有し、日本語教員及び日本語教育コーディネーターとしての高度な専門性を持つ者。国内外の日本語教育の現場で次に掲げる事項を行う者</p> <p>日本語教育プログラムの策定・実施運営及び改善 日本語教員及び日本語学習支援者に対する指導・助言 日本語教員及び日本語学習支援者の養成・研修の企画立案 多様な機関と連携・協働し日本語学習者の学びや日本語教育を通じた社会参加を促進するための活動のデザイン</p>
	日本語学習支援者	<p>日本語教員や日本語教育コーディネーターとともに、日本語学習者に日本語を指導したり、日本語学習を促進する役割を担う者。(交流を活動目的とする者は含まない。)</p>
<p>ここで挙げる日本語教育人材は現在多様な分野で日本語教育に関わる人々全てを網羅するものではない。地方公共団体が実施している日本語教室においては、「日本語を教える/学ぶ」こと以外にも多くの住民がボランティアとして関わることで、日本語教室が外国人にとって地域社会との接点となり、住民間がつながる場となっており、そこに携わる人材は広範であり多様である。</p>		

参考 「日本語教育のための教員養成について」平成12年3月30日 日本語教員の養成に関する調査研究協力者会議より

日本語教員として望まれる 資質・能力	<p>今後の日本語教員養成における新たな教育内容を提示するに当たって、日本語教員に求められる資質・能力として、次のような点が重要である。</p> <p>ア.日本語教員として基本的な資質・能力について 日本語教員として望まれる資質・能力として、まず基本となるのは、日本語教員自身が日本語を正確に理解し的確に運用できる能力を持っていることである。その上で、これからの日本語教員の資質・能力として、次のような点が大切であると考えられる。</p> <p>(ア)言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力を有していること。 (イ)日本語ばかりでなく、広く言語に対して深い関心と鋭い言語感覚を有していること。 (ウ)国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際感覚と人間性を備えていること。 (エ)日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性とその意義についての自覚と情熱を有すること。</p> <p>イ.日本語教員の専門能力について 次に、日本語教育の専門家として、個々の学習者の学習過程を理解し、学習者に応じた適切な教育内容・方法を判断し、それに対応した効果的な教育を行うための、次のような能力を有していることが大切である。</p> <p>(ア)言語に関する能力 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、そして原語使用や言語発達及び原語の習得過程等に関する知識があり、それらの知識を活用する能力を有すること。 (イ)日本語の教授に関する知識・能力 過去の研究成果や経験などを踏まえた上で、教育課程の編成、授業や教材等を分析する力があり、それらの総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力を有すること。 (ウ)その他日本語教育の背景をなす事項についての知識・能力 日本と諸外国の教育制度や歴史・文化事情に関する知識や、学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力を有すること。</p>		
知識・技能・態度への分類	<p>外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識 対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識 言語使用に関する知識 言語発達に関する知識 言語の習得過程に関する知識 日本の教育制度に関する知識 日本の歴史・文化事情に関する知識 諸外国の教育制度に関する知識 諸外国に歴史・文化事情に関する知識</p>	<p>日本語を正確に理解し的確に運用できる能力 言語教育者として必要とされる学習者に対する実践的なコミュニケーション能力 外国語や学習者の母語(第一言語)に関する知識、対照言語学的視点からの日本語の構造に関する知識、言語使用や言語発達及び言語の習得過程等に関する知識を活用する能力 学習者のニーズに関する的確な把握・分析能力 教育課程の編成、授業や教材等を分析する能力 教育課程の編成、授業や教材等に対する総合的知識と経験を教育現場で実際に活用・伝達できる能力</p>	<p>日本語ばかりでなく広く言語に対して深い関心を有している 鋭い言語感覚を有している 国際的な活動を行う教育者として、豊かな国際的感覚を有している 国際的な活動を行う教育者として、豊かな人間性を備えている 日本語教育の専門家として、自らの職業の専門性を有している 日本語教育の専門家として、自らの職業の意義についての自覚と情熱を有している</p>